

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年11月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0174100305		
法人名	社会医療法人 孝仁会		
事業所名	グループホームはまなすの家星が浦		
所在地	〒084-0912 釧路市星が浦大通3丁目9番9号 (電話) 0154-55-6255		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年10月19日	評価確定日	平成21年11月13日

## 【情報提供票より】(平成21年9月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年4月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算	10.49人

### (2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2階建ての	1~2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,000 円	その他の経費(月額)	7,000円~10,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

### (4) 利用者の概要(10月19日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	14 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	5 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	81.2 歳	最低 63 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	星が浦病院、中谷歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、母体の医療法人が運営する敷地内に、病院、老人保健施設、訪問看護ステーションなどと一緒設置されている。医療連携を密にとる体制も整備されていて、利用者、家族、主治医など関係者と話し合いながら、ターミナルケアに取り組んでいる。利用者の高齢化が進んでいるので、浴槽に手すりを数多く取り付けたり、エレベーターを設置するなどの配慮がされている。職員は、法人の年間研修計画に基づき研修を受け、国家資格を目指すなど、サービスの質の向上に努めている。利用者は安心して、日々ゆったりと暮らしている。また、年度内にスプリンクラー消火設備を設置する予定である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題となっていた理念については、地域密着型サービスに基づく事業所独自の理念を掲げ、明文化している。また、利用者の重度化についても医療法人内で連携を図り、ターミナルケアに取り組む体制を整備している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で、外部評価を参考に自己評価に取り組んでおり、職員会議などで話し合い、取りまとめている。評価結果は運営推進会議に報告し助言を得て改善に向け、日々のケアの実践に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月に1回開催し、家族会代表、地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、法人職員、事業所職員で構成している。会議では、事業所の運営状況、利用者の生活状況、自己及び外部評価の結果などを報告して助言を得るなど、事業所との信頼関係が構築されており、協力を得られている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には、月1回発行のはまなす通信で、利用者の日ごろの暮らしぶりや健康状況、行事予定を、さらに金銭出納帳の写しなどを送付し、報告している。家族の来訪時や家族会などでは、相談や苦情などを聴いて職員会議で対応を検討し、改善に取り組んでいる。また、事業所内や市、道、国にも苦情相談窓口があることを報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は、町内会に加入しており、敬老会、盆踊り、新年会などの町内会の行事に積極的に参加している。地域の学生ボランティアや児童館と交流があり、多くの子供達が来訪している。地域住民もボランティアとして事業所を訪れるなど地域との交流を盛んに行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のほかに、本年4月に、地域での暮らしを支援することができるよう事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員研修で事業所独自の理念について研修して共有化を図り、ミーティングや職員会議で確認している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は町内会に加入し、新年会、盆踊り、敬老会等の町内会行事に積極的に参加している。地域の学生ボランティアや児童館と交流があり、多くの子供たちが来訪している。地域住民もボランティアとして訪れるなど、地域との交流を盛んに行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は、外部評価を参考に自己評価に取り組んでいる。評価の結果を運営推進会議で報告して助言を得、職員会議で改善し、日々のケアの実践に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回開催しており、家族会代表、地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、法人職員、事業所職員で構成している。会議では、事業所の運営状況、利用者の生活状況、自己及び外部評価結果などを報告して助言を得ており、事業所と出席者の間では信頼関係が構築されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携は密にしており、事業所の運営について不明の点があれば、出向いて指導を受けている。地域包括支援センターとは、後見人制度について連携を深めている。		
<b>3カ月に1回見直しをしている。</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、手紙を添えて、月1回発行のはまなす通信で、利用者の日頃の暮らしぶりや健康状況を報告するとともに、金銭出納帳の写しなども送付し、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設立しており、家族の来訪時や家族会の総会などで、意見や要望、苦情などを聴き、職員会議で対応について協議し改善に結び付けている。また、事業所内や市、道、国にも苦情相談窓口があることを報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日ごろは、担当職員が利用者一人ひとりに、日々のケアを実践しているが、異動時は事前に利用者に説明するとともに、全職員で対応してダメージを与えないように取り組んでいる。また、利用者が新人職員になじむことができるよう支援している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加している。また、働きながら資格を取った時、法人が表彰するなど、本人の励みにつながっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会に加入し、同業者と交流し意見交換や勉強会など通して、サービスの質の向上につなげている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人や家族と面談してサービスの内容を説明し、事業所への利用体験を行ったりするなど、馴染みの関係をつくりあげながら、無理のないよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、家庭的な雰囲気の中で、常に利用者を人生の先輩として尊敬している。日々学ぶことも多く、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに担当職員がおり、利用者や家族との日ごろの関わりの中で思いを把握している。センター方式のアセスメントシートを利用して記録し全職員が利用者の思いや意向を共有するようにしている。把握が困難な場合、本人本位の検討をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員は、利用者の担当職員を通して本人の意見や家族の要望を聞き、さらに、訪問看護師、主治医からの指示を確認し、職員会議での話し合いを経て、介護計画の作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、概ね3ヶ月に1回見直しているが、担当職員から利用者の変化について報告があれば、職員会議で討議し、利用者や家族に相談して介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助、送迎などは基本的に家族が行うこととしているが、家族からの要望があれば柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の訪問看護ステーションから週1回の健康チェックの訪問があり、月2回法人内の病院から認知症専門医往診がある。また、その他のかかりつけ医の受診もできるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、利用者、家族、主治医、訪問看護師等の関係者で話し合い、常に状況を把握共有し、ターミナルケアに取り組む体制を整備している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を守り、プライバシーを損ねない取り組みや、個人情報の秘密保持の徹底について、ミーティングや職員会議で取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の流れを優先することなく、利用者一人ひとりのペースにあわせ、利用者が充実した日々を過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てているが、時には、利用者の食べたいものを聞き、できるだけ希望に沿えるようにしている。また、職員と食材の買い物に行ったり、食事の準備や配膳、後片付けも無理なく、楽しみながら職員と一緒に出来るようしている。一人ひとりの咀嚼状況にあわせ、きざみ、とろみ食などを用意して、楽しく食卓を囲めるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している	入浴日は設定せず、午後2時よりいつでも入浴できるように支援している。利用者の高齢化が進んでいるので、大風呂に、手すりを数多く取り付け、安全に入浴を楽しめるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたんだり、パークゴルフやカラオケ、映画、園芸など得意なこと、今できることなど、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	パークゴルフ、映画、買い物、美容室など一人ひとりの希望に沿うよう外出支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者が外出しようとする時は、職員がそっと寄り添い言葉をかけるなどの支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で防災マニュアルに従い、避難訓練を実施している。避難訓練について町内会に通知しているが、参加協力までは求めている。今年度内にスプリンクラー消火設備の設置を計画している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示を踏まえ、利用者一人ひとりの減塩、栄養バランス、水分量、食事量を記録し、食事内容検討委員会で検討している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けをして季節感を採り入れたり、各行事に参加した利用者の写真を見やすい所に掲示している。また、目にやさしい電球を使い、音は最小限に抑え、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の個室には、各自が使い慣れた家具を持ち込み、壁には家族の写真を飾るなど、利用者が安心して生活できるように配慮している。		

※  は、重点項目。